

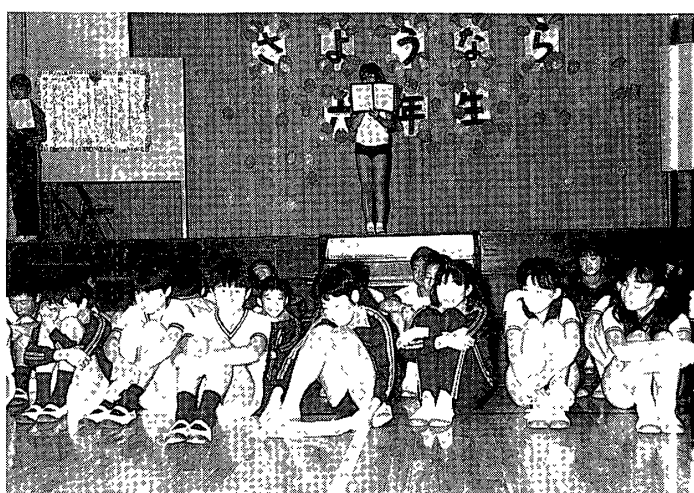
12 特別活動

特別活動プロジェクト

1. はじめに

特別活動の指導にあたって、「個が生きる」とは、「子供一人一人がその個性を発揮しながら豊かな自己実現をはかれること」ととらえている。従って、日々の実践を進めるにあたっては、自ら学ぶ意欲、思考力、判断力、表現力などを育成することを基本に据え、個々の子供のよさや内に秘めた可能性を積極的に見出し、指導に生かすことが大切であると考え。また、評価については、特別活動は、その特質からして「人間形成の過程そのものを重視する」教育活動であるから、活動の成果だけでなく、活動の過程を重視した評価をしていくことが大切である。

一人一人の子供は、「こんな風にしてみたい。」「こんなことをしてみたい。」などの欲求や関心を持っている。そんな子供たちの願いをかなえるためには、その目標、方法、活動が可能なかぎり、児童自身によって考えられ、つくられ、実践されていかなければならない。すなわち、自主的であること、実践的であることは、望ましい集団活動を支える基本でなければならない。



2. 個が生きる特別活動の評価

特別活動は、望ましい集団活動を通して、「成すことによって学ぶ」教育活動としての特質を持っている。一人一人の子供は、学級活動や児童会活動など様々な活動において、発達段階や集団活動の特性に応じて、自分の役割を果たし、相互に協力して活動する過程で、集団の一員としての自覚を深めるとともに、意欲を持ってその責任を果たすようになる。

(1) 集団活動の特質とする特別活動の基本的な性格

- ① 集団の一員として、成すことによって学ぶ活動を通して、自主的、実践的な態度を身につける活動である。
- ② 教師と子供及び子供相互の人間的な触れ合いを基盤とする活動である。
- ③ 子供の個性や能力の伸長、協力の精神などの育成を図る活動である。
- ④ 知、徳、体の調和のとれた豊かな人間性を養う活動である。

従って、特別活動の指導と評価にあたっては、これらの基本的な性格を十分理解し、子供の活動が効果的に展開されるように考える必要がある。

(2) 自己を高める評価力の育成

- ① 「子供のよさを見取り、生かす」指導と評価

特別活動の特質をふまえ、子供一人一人の「よさと可能性」に着目した評価観を持つことがま

ず、大切である。その中から、子供一人一人の現在のありのままの姿やその生き方が見えてくる。子供の身についていない点を補い解消することに努めるとともに、一人一人の子供が持っているよさ、現に芽生えている長所に着目しそれを更に伸ばさせる評価の構えを持つことが大切である。

② 特別活動の評価

特別活動の評価する観点は、次の4つに大別して考えることができる。

ア. 指導計画について

特別活動の全体の指導計画をはじめとする各種の指導計画について、当初立てた目標がどの程度達成されたかを明らかにし、更に効果的な指導を計画、実施する。

イ. 指導方法について

特別活動の目標を達成するうえで、実際に行われた指導方法が適切であったかどうかを評価する。

ウ. 集団の変容について

各内容において展開される集団活動の望ましさの程度や集団の変容などについて評価する。

エ. 個人の変容について

関心・意欲・態度・思考・判断などについて、一人一人の子供の状況や変容を評価する。

③ 自己評価力の育成

様々な活動を通して、まず自分自身を見つめ直し客観的に知ることが、自己評価力育成の第一歩である。多くの人と集団生活の中で交わり、自分自身と友人との共通点や相違点を知ることになる。その中で、友人も自分もそれぞれ多種多様な個性を持っていることを理解するのである。活動の後になんらかの形で振り返る場を設定することを積み重ねることにより、自分自身をより深く認識するようになると考える。それを出発点とし、さらに高まるにはどうしたらよいか常に問いかけながら実践を積みかさねていくことにする。

3. 指導の実際〔児童会の集会活動「6年生を送る会」の実際〕

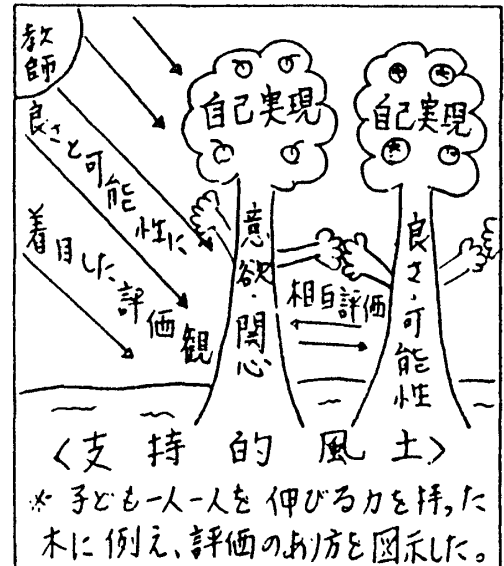
本校では、異学年相互の触れ合いの場を児童活動の中に積極的に取り入れながら、各種の集会活動に取り組んできた。ここでは、児童会の集会活動「6年生を送る会」の実践を中心に個が生きる特別活動について述べてみたい。

(1) 実施計画案の作成

「6年生を送る会」を約1か月後にひかえた運営委員会において、「どんな集会にしたいか」を話し合った。その話し合いの中で、次のようなことが確認された。

- ① お世話になった6年生を心を込めて送ることができるような集会にするため、内容を工夫すること。
- ② ただ楽しいだけでなく、6年生とのふれあいの場となるような集会にすること。
- ③ できるだけ運営委員を中心とする児童自身の手で集会を作り上げていくこと。

上記のような基本的な考えが集会の中に生かされるようにするためには、どのような内容を集会の中に盛り込んだらよいか、一人一人が具体的に考えてくることを約束して、第一回目の運営委員会を終えた。そのようにして、繰り返し繰り返し話し合いを持ち、できあがった原案をさらに代表委員会で検討して、大集会「6年生を送る会」の計画が立てられた。



(2) 集会の概要

① 集会の流れ

児童の活動	評価の観点
第1部「仲良く楽しく」 (1) 開会式 ・開会の言葉 ・6年生入場 ・はじめの言葉 ・校長先生のお話 (2) クイズアンドゲーム ・6年生にちなんだ○×クイズ ・ジェンカでゴーゴー	・6年生を心をこめて送る場作りができていないか。 ・6年生一人一人の姿が在校生の印象に残るような入場ができたか。 ・6年生を囲んで楽しくクイズやゲームをすることができたか。
第2部「新たなる出発に向けて」 (3) みんなで歌おう ・「未知という名の船に乗り」 (4) プレゼント交換 ・1～5年生から6年生へ ・6年生から1年生へ (5) 思い出のアルバム ・春夏秋冬の思い出(OHPによる) (6) 閉会式 ・お別れの言葉 ・副校長先生のお話 ・終わりの言葉 ・6年生退場	・6年生の新たなる出発を祝いのにふさわしい歌声であったか。 ・心を込めて手作りの画集をプレゼントすることができたか。 ・卒業していく6年生との思い出を振り返ることができたか。 ・お世話になった6年生に、感謝の気持ちをこめたお別れの言葉であったか。



「春の歓迎園足」

(思い出のアルバムのTPシート)

「お世話になった6年生を心を込めて送る会にしたい」という一人一人の願いが、伝わってくるような集会であった。プログラム5番「思い出のアルバム」では、5年生児童が、上記のような絵をOHPでスクリーンに映し出し春夏秋冬の思い出をナレーターが語

った。1年生から6年生までの児童一人一人がスクリーンに映し出される数々の思い出の場面を、きのうのこのように思い浮かべながら、ナレーションに聞き入った。静かでゆったりとした時間が流れた。ある子は、もうすぐやってくる卒業の日を思い、ある子は過ぎ去った日々を思い起こし涙を流していた。ナレーターを務めた子は、集会后「みなさんはこの6年生を送る会についてどう思いますか。自分でいうのははずかしいことですが、今までの何十回の会と今回を比べると、今回の送る回が一番良かったと思っています。」と、感想を書いている。

プレゼント交換では、縦割り班で毎日お世話になった6年生に、1～5年生から折り紙・モールなどを使って作った画集が贈られた。



4. おわりに

大集会「6年生を送る会」の実践を終え、その成果と今後の課題について考察した。

① 実践の成果

この取り組みを行った成果については、次の3点が挙げられる。

ア. 「6年生を心を込めて送る集会にしたい」という児童一人一人の願いが伝わってくるような会が持てたこと。

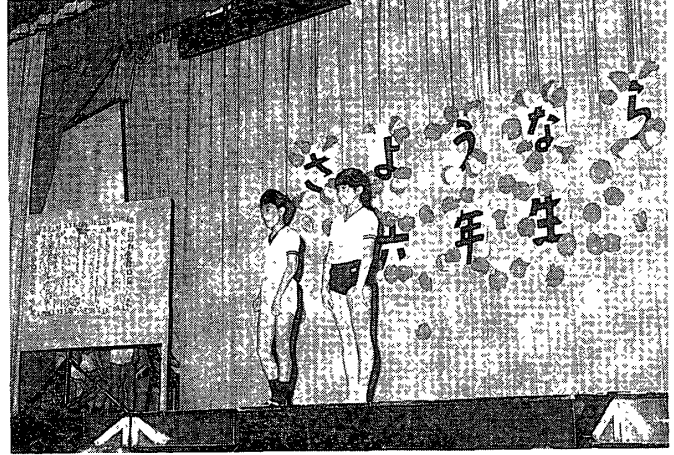
イ. 運営委員が中心になり、児童自身の手で運営ができるようになってきたこと。

ウ. 全校児童が心を一つにして楽しく集会に参加できたこと。

② 今後の課題

今後も児童活動の指導に当たっては目先の結果や成果ばかりを求めるのではなく、少々の失敗があっても温かく見守りながら、児童自身の本当の意味での自主的な活動が促されるよう、地道な取り組みを継続していきたい。

(文責 曾根照三)



最後の最後に

松本佳子

三月十二日。今日は、6年生を送る会がありました。私は司会者に選ばれました。この日のために何日前からどのくらい計画や練習をくり返し続けたことでしょう。私の役目は、退場の先導・思い出のアルパムを語ることに。一見、みやすいことだと思っていまいませんか。そうでもないのです。感情の出し方・マイクの音の大きさなどには、とてもむずかしいのです。ですから大変な練習が必要だったので。

○みんな仲良く遊んだかんげい遠足
○五・六年生しか知らない苦しい遠泳
○がんばる力を見せてくれた運動会
○ドキドキともきんちようした学芸会
一年間の代表的な行事を分けて語る私。けれども、こんなりっぱな行事ができたのも、かがやかせてくれた六年生のおかげです。かげでいつも応えんしてくれている、やさしいお兄さん、お姉さん。

次は六年生からのお別れの言葉。六年生が言いました。「私たちは、去年のこの時期にすばらしい六年生になるときめましたが、あれからもう一年。もう卒業しなければなりません。」

と言いました。お兄さん、お姉さん、お兄さん、お姉さん、ありがとう！なみだがおを伝わって。ボタッ。このなみだがおちていくようなやい一年間でした。泣いて、笑み・悲しみ・いろんなことがあった一年間でした。次に、この意志をうけ次ぐ私たち。そしてみなさん、最後の最後になった心のこもった送る会それが私たちにできる精いっぱい努力した会です。みなさんは、この6年生を送る会についてどう思いますか。自分でいうのにはずかしいことですが、今までの何十回の会と今回を比べると今回の送る会が一番よかったです。私たちが、それは、やっぱり、みんなが六年生に対して心から送る気持ちがあったからではないかと思えます。私たちと一年生から五年生までの力を合わせてがんばります。

六年生のお兄さんお姉さん。
今までお世話になりました。
卒業しても忘れないで。忘れないで。
私たちは決して
忘れません。
この日
この集会
最後の最後の集会。
ありがとう！ありがとう！
六年生